

3千本の色鮮やかなアジサイに見入る
「川崎あじさい公園まつり」を開催

「川崎あじさい公園まつり」(同実行委主催)は7月3日、JR陸中門崎駅前の同公園で行われ、地域住民ら約300人がアナベルやヒメアジサイなど5品種3千本のアジサイを鑑賞しました。

川崎保育園の園児35人がおもちと共になごダンスで開催を祝ったほか、産直市やプリザーブドフラワー講習会が開かれるなど、さまざまな催しでにぎわいました。弥栄の菅原英和さん(46)、漣くん(5)、聖くん(2)親子は「青色のヒメアジサイがきれいです」と鮮やかに色づいた花にうっとり。千葉博実行委員長は「地域の皆さんと一緒に作ったあじさい公園。多くの人にみてほしい」と話していました。



JAいわて平泉の夏秋野菜出発式
首都圏への本格的な出荷がスタート

JAいわて平泉(佐藤鉦一代表理事組合長)の夏秋野菜出発式は6月28日、大東町摺沢の東部園芸センターで行われ、同JAの主力であるトマト、ナス、キュウリ、ピーマン、ミニトマトの5品目の生産者ら約120人が、収穫したばかりの野菜約16トンを首都圏に向けて送り出しました。佐藤組合長は「一関市や平泉町と協力し、7月に東京の築地などでトップセールスを行う。岩手の野菜のファンづくり・ブランドづくりにまい進していく」と話し、消費地でのアピールに意欲を見せました。

本年度の5品目の販売金額目標は約14億7800万円。前年を455トンを上回る出荷量を目標に掲げています。



臼井国際産業が一関に立地
狐禅寺の貸し工場に11月に操業予定

本市と臼井国際産業株式会社(静岡県清水町、星野俊彦代表取締役社長)との立地協定調印式は6月23日、市役所本庁で行われました。同社は本市が狐禅寺に建設中の貸し工場2棟で自動車のプレーキ配管などを製造。金ケ崎町と宮城県大衡村のトヨタ自動車東日本の各工場に供給する計画です。

調印式には関係者ら10人が出席。勝部修市長と星野代表取締役社長が協定書に調印し、握手を交わしました。星野代表取締役社長は「一関を基盤に東北の復興にも力添えできれば」と話しました。同社は自動車の高圧燃料噴射管の製造で世界トップクラス。11月の操業を目指し、雇用は当初10人を予定しています。



東山でスポーツ指導者向けの着衣泳講習会
水難事故に遭ったときの対応方法を学ぶ

着衣泳講習会(市体育協会主催)は7月3日、東山B&Gセンターで行われ、スポーツ少年団の指導者や一般市民ら15人が水難事故に遭ったときの対応方法を学びました。

講師の徳田裕子さんは「水難事故に遭ったときは、むやみに泳ごうとせずに浮いて救助を待ったほうが良い」とアドバイス。舞川から参加した浅利達也さん(38)、昌道くん(8)親子は「知識がなければ、ただ浮くだけでも難しい」と話し、着衣のまま水に入ったときの動きにくさを実感していました。

同講習会は、日本体育協会公認スポーツ指導者の資格を更新する研修会も兼ねて行われました。

総合戦略の推進状況などについて議論を交わす
本年度初のまち・ひと・しごと創生有識者会議

本年度初会合となるまち・ひと・しごと創生有識者会議は6月30日、市役所本庁で開かれ、委員10人が出席して総合戦略の初年度の推進状況や市の施策について意見交換を行いました。

会議では、事務局の市政企画課が基本目標4項目の指標と、重要業績評価指標(KPI)53項目の状況について説明。委員からは「スピード感のある事業展開を期待する」「子育て支援の制度についてもっと市民へ周知すべき」といった意見が出されました。市の熊谷雄紀市長公室長は「提言の内容を受け止め、施策に反映したい」と述べました。次回は11月に開催予定。本年度上半期の実績などについて協議します。



敵美中でILC特別授業
次代担う中学生がILCの理解深める

国際リニアコライダー(ILC)の特別授業が、市内の中学校で行われています。同授業は、次代を担う中学生にILCの理解を促そうと市が開催しているもの。7月8日には、敵美中の2、3年生56人が高エネルギー加速器研究機構(KEK)の藤本順平氏からILCの研究内容や素粒子の基礎知識を学びました。

ドライアイスやアルコールを使って粒子の動きを見る実験では、生徒全員が驚きの表情を浮かべていました。藤本氏は「ILCの実験に携われるのは君たちの年代。興味を持ち、研究に携わってほしい」とエール。菊地未優さん(2年)は「楽しい授業で、ILCに興味をわきました」と声を弾ませていました。



水防技術を確認し出水期に備える
市水防訓練に各団体から1200人が参加

梅雨時期の大雨などに備え、水防技術を確認する市水防訓練は7月3日、磐井川河川公園で行われ、水防隊員らが水防工法の手順を確認しながら、防災意識を高めました。

市民も訓練の見学ができるよう会場を同所に移して2回目となる同訓練。市消防団で組織する水防隊、市消防本部、自主防災組織、婦人消防協力隊や一般市民ら約1200人が参加しました。笹谷・外山自主防災会長の阿部一勇さん(63)は「東日本大震災以降、防災会でも訓練には力を入れている。今日は隊員たちが日頃の訓練の成果を出している頼もしく感じた」と話してくれました。



自慢の踊りに盛んな拍手
千厩の夏を彩るおいとこ踊り

千厩町の夏を彩るイベントとして定着した「第22回夫婦石おいとこ大会」(同実行委主催)は7月9日、天王山下特設会場で開かれ、岩手県南から宮城県北に伝わる伝統芸能おいとこの踊りに、会場から盛んな拍手が送られました。

大会には、市内や宮城県登米市からの15団体・個人が出場。出場者は、唄にあわせて精一杯演技していました。登米市迫町から仲間6人と初めて出場した及川ヤスコさんは「緊張しましたが、息も合ってよかった。来年も出たい」と笑顔で話してくれました。

大会終了後は、つきたて餅の振る舞いなども行われました。